

米倉という地名は、昔この地区の金山というところに、大和朝廷の直営農地である屯倉があったことに由来しているという説があります。言い伝えでは、屯倉があったところを米塚と呼んでおり、祠や御神木の榎などがあつて、昭和になってからもしばらくはお祭りをしていました。

さて、米倉地区の氏神さんは鉦衝神社ですが、この神社の保存庫には、昔行われていた人形芝居に使われた人形の頭や衣装等の用具が保管されています。人形芝居にはあやつり人形と三番叟があり、江戸時代の中頃に始められ、地区の若い人たちによって伝承されてきました。あやつり人形についての詳細はわかっていますが、明治17年頃まで行われていました。三番叟は1月14日と6月14日の夜に、疫病神が村に入ってきたという浅川にかけられた橋の上や村境の道路などで、明治42年頃まで行われていました。その後は途絶えていましたが、平成2年、およそ81年



鉦衝神社で行われている人形三番叟の一幕



このように愛嬌のある表情を見せることも…



竜安寺の山門



墓石で覆われた竜塚古墳の墳丘



竜塚古墳墳頂上に祀られている祠

訪 探 市 吹 笛

シリーズ 第16回

よねぐら

八代町米倉地区

の時を経て人形芝居のうち、三番叟が区民有志の手によつて復活されました。そして、毎年11月3日に鉦衝神社の境内で行われており、新たな歴史を刻んでいます。

また、米倉地区は古墳が多数所在していることでも知られていますが、これらの中で、近年特に脚光を浴びているのが、通称「竜安寺山」と呼ばれている上ノ平の丘陵上に所在している竜塚古墳です。この古墳は一边が56メートルもある大型の方墳（上空から見下ろすと正方形をした古墳）で、墳丘の高さが7・4メートル、周囲に幅約10メートルの周溝が廻っています。さらに、墳丘の斜面は葎石で覆われ、5世紀前半に造られたことが明らかになっています。この竜塚のような古墳時代中期の大型の方墳は、東日本では他に確認されていないため、学術的に貴重な存在となつていきます。

ところで竜塚古墳には、竜神まつわる伝説があります。永保2（1082）年、村が飲水もこと欠くほどの水飢饉に襲われた時、竜神は自分の身と引き換えに雨を降らせ、雨が上がつた後には竜神の体が三つに裂けて、頭が竜塚に、胴体が竜安寺に、尾が竜着に落ちていたそうです。村人はこれらをそれぞれの地に埋め、手厚く供養し、竜塚の墳頂に竜王権現を祀つて、日照りの際に雨ごいを行つたということです。そして、今でも竜塚古墳の墳頂には、米倉地区を見守るかのように古びた祠が一基祀られています。

笛吹市教育委員会 文化財課